

▶聴覚障害の早期発見のために

新生児聴覚検査費用の助成が始まりました

お知らせ

★健康推進課（保健センター内） ☎ 24- 2 0 0 3

新生児聴覚検査は、赤ちゃんが受ける「耳の聞こえの検査」です。聴覚障害があるかどうかを調べる検査で、生後すぐ入院中に検査をすることをお勧めしています。

聴覚障害があることを早く発見して適切な支援をすることで、赤ちゃんの言葉の発達を助けることができます。配布された助成券を、出産のために入院する際に病院等へお渡しください。

●対象
令和3年4月1日以降に検査を受けた赤ちゃん

●対象検査と助成額
出産で入院中に病院等で受けた新生児聴覚検査

- ・自動 ABR(自動聴性脳幹反応検査)：上限 5,000円
- ・OAE (耳音響放射検査)：上限 3,000円

※助成券がない場合や里帰り等で助成券が使えない病院等で検査を受けた場合は、健康推進課までお問い合わせください。

▶ 36 議案を審議

令和3年本庄市議会 第1回定例会

お知らせ

★議会事務局 ☎ 25- 1 1 4 8

令和3年本庄市議会第1回定例会が2月25日から3月23日までの日程で開催されました。

今議会には、総額を歳入歳出それぞれ283億1,300万円とする「令和3年度本庄市一般会計予算」など31議案を提出しました。さらに最終日に、「令和3年度本庄市一般会計補正予算（第1号）」など3議案を提出しました。

また、議員提出議案として「本庄市議会会議規則の一部を改正する規則」、「新型コロナウイルス感染症による誹謗中傷をなくし共に支えあいながら難局を乗り越える決議」の2議案が提出されました。

27日間の審議の結果、すべての議案が原案のとおり可決、承認、同意され、閉会しました。

▶特別職職員の就任

公平委員会委員を紹介

お知らせ

★監査委員事務局 ☎ 25- 1 1 8 7

公平委員会委員に、増井武文氏が就任しました。任期は、令和7年3月23日までです。



増井 武文 氏

▶皆さんからの相談を受け付けます

行政相談委員を紹介

お知らせ

★市民課 ☎ 25- 1 1 1 3

3月31日に任期満了となった行政相談委員について、次の3名が、総務大臣から委嘱されました。



石田 祐寛 氏



竹沢 弘子 氏



奥原 栄一 氏

行政相談委員は国や県などの行政サービスに関する苦情や相談を受け付けています。
相談日時は、毎月第3木曜日午後1時から4時まで（25ページ参照）です。お気軽にご相談ください。



不撓不屈の人

ふとうふくつの人

第一話 少年時代

寅之助生まれる

保己一は江戸時代も後半に入った延享三年（一七四六）五月五日に、武蔵国児玉郡保木野村（現在の本庄市児玉町保木野）に生まれました。この年が寅年だったので寅之助と名付けられました。

寅之助は幼いころから花の咲く草木が好きで、野辺で採った数種のすみれを庭先に植えて楽しんでたといいます。寅之助は体が弱かったらしく、五歳の時に肝の病にかかり、七歳の春には失明してしまいました。「肝の病」といいますが、現在の病名はわかりませんが、高熱を発し、命はとりとめましたが目が見えなくなっていました。

両親は上野国藤岡宿（現在の群馬県藤岡市）の眼医者に診てもらったり、修験者正覚坊の弟子になって多門坊（たもんぼう）として、運氣を変えるために生年を二つ減らして辰年生まれとして、名も辰之助に変えましたが効果はありませんでした。

江戸行きを考える

辰之助が十二歳の時、最愛の母を病気で亡くしました。この時の辰之助の嘆きは尋常ではなかったといえます。度重なる大きな不幸に見舞われた辰之助は江戸行きを考え始めます。ある時、江戸では「太平記読み」と言っていて、物語の一部を暗記して、諸家へ出入りして有名になる者がいるとの話を聞き、「太平記」四十

郷土の偉人「塙保己一」の名前を聞いたことがあっても、塙保己一について詳しいという方はどれくらいいるでしょうか。今回より「塙保己一の生涯」を連載して、保己一についてより詳しく知っていただきたいと思えます。

巻を暗記して生活できるのなら自分でも出来ると思ひ、ここに一筋の大きな光明を見出したのです。

辰之助は暗記力に優れ、利発な少年だったので、そのことが辰之助の江戸行きに関係したかもしれません。江戸へ出る経緯については記録が無くわかっていません。保木野村の名主や領主の旗本永島氏の援助があったかもしれない。

江戸では目の不自由な人の集まりの当道座という組織があり、そこに入門することになります。



▲塙保己一一家（児玉町保木野）

ミニ知識①

覚えていた記憶、花の色

寅之助（後に辰之助と改名）は失明する前から花の咲く草木を好み、野辺で採集した数種のすみれを庭先に植えて楽しんでたといいます。失明後にも花の咲く草木を庭に植えて、それを見て喜ぶ人たちの声をきいて自らも楽しんでたといいます。

七歳で失明しましたが、それまでに見たものはかなり覚えていたようです。特に色については、すみれの紫、ゆずの黄色、ほおづきの赤を覚えていたようです。現在、この三色を塙保己一のシンボルカラーとして使っています。



挿絵「少年塙保己一伝」大野武男著 国立国会図書館蔵より転載

草花を愛す保己一の幼時